

被災地方言会話集

— 宮城県宮城郡利府町 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県宮城郡利府町

収録日時 2012（平成24）年7月17日

収録場所 宮城県宮城郡利府町字中央 利府町生涯学習センター

話題 【震災のときのこと】

話者

A	男	1944（昭和19）年	（収録時67歳）	[Bの幼なじみ]
B	女	1940（昭和15）年	（収録時71歳）	[Aの幼なじみ]
C	男	1964（昭和39）年	（収録時48歳）	[知人]
D	女	1979（昭和54）年	（収録時32歳）	[調査者]

話者出身地

A	利府町加瀬（カセ）
B	利府町加瀬（カセ）
C	利府町加瀬（カセ）

【震災のときのこと】

話し手

A	男	1944 (昭和 19) 年	(収録時 67 歳)	
B	女	1940 (昭和 15) 年	(収録時 71 歳)	
C	男	1964 (昭和 39) 年	(収録時 48 歳)	
D	女	1979 (昭和 54) 年	(収録時 32 歳)	[調査者]

001A : アー ワタシワ カセヌマニ イダンデス。(D ア) カセヌマ。
あー 私は 加瀬沼に いたんです。(D あ) 加瀬沼。

002D : カセヌマ。(A アノ) アー、ウン。
加瀬沼。(A アノ) あー、うん。

003A : グランドゴルフ シッタッタノネ。(D ア、ソーナンデスカ) ウン。
グランドゴルフ していたのね。(D あ、そうなんですか) うん。

(D アノー) デ ソントギネ オワッテ ンジャ カダズゲッペド
(D あの一) で そのときね 終わって それじゃ 片付けようと

(D ウン) ユーゴドデ トジューデネー ナッタワゲデス。
(D うん) いうことで 途中でね [地震に] なったわけです。

(D アー) ソシタラネー モー チョット トヌカグ タッテランネーワゲサネ。
(D あー) そうしたらね もう ちょっと とにかく 立ってられないわけね。

(D ー) ンデ ヨズンバイニナッテ イダンダゲド、ソシタラネー
(D んー) それで よつんばいになって いたんだけど、そうしたらね

アノー チョット ジムショノ マエワネー ナンデモ ナッテネゲット
あの一 ちょっと 事務所の 前はね 何にも なってなかったけれど

ニシガワネー エギジョーカゲンショーズノスカ (D へー) マックロイミズガ
西側ねー 液状化現象っていうんですか (D へー) 真っ黒い水が

利府町 自由会話

ワーッテ デダノサ。ホンデ アラ ハナ ホンカンデモ (C ハー)
わーって 出たのね。それで あら ああ 本管でも (C はー)

フツアゲタノガヤッテ イダッタノネ。 ソゴラ ス
壊れたのかなんて [言って] いたのね。そこら ×

エギジョーカゲンショーナンダネ。アズグネー (D ウン)
液状化現象なんだね。 あそこねー (D ウン)

コノヘンマデ アノ ムゴーネー アノ ヤジダッタガラ アノ (D ハイ)
この辺まで あの 向こうねー あの 谷地だったから あの (D はい)

タンボツグ タンボネー ササンナツタッテ、コゴマデ。ソイズ ンメダガラ
××××× 田んぼねー 筐になったって、ここまで。それ[を] 埋めたから

ヤッパリ ナガニ マダ スイブン (B ンダヨネー) ダイブ
やっぱり 中に まだ 水分 (B そうだよね) だいぶ

フグンデンノガネ (B ウーン ヤチネ) ソレデネー アララララッテ
含んでいるのかね (B うーん 谷地ね) それでねー あららららッテ

イダッタノネ。 ホンダゲレドモ マ ワダシラ イダドゴダゲワ
[言って]いたのね。それだけれども ま 私たち[の] いたところだけは

ナントガネー、ソゴダゲワ ホレ ウー エギジョーカゲンショーワ
何とかねー、そこだけは ほら うー 液状化現象は

ナガッタカラ。(D ウーン) ソシタラネー ムゴーノ アノ
なかったから。(D うーん) そうしたらねー 向こうの あの

ゴミショーキャグロ、コノエントズカ° ネー (C ウーン) ハズレデダノ。
ごみ焼却炉、 この煙突がねー (C うーん) 外れていたの。

コイナノコイナノ。 [1] アララ オレルワオレルワッテ
こんなのこんなの。 あらら 折れるわ折れるわって

利府町 自由会話

イダダゲントモネ (C ウーン) オレネガッダノワ。
[言って]いたんだけどもね (C うーん) 折れなかったんだよ。

(C ハー) (B ハー) ハー イヤイヤ コレ ハジメデ ミダデバ
(C はー) (B はー) はー いやいや これ 初めて 見たってば

ンダゲット、 アノジシンデネ。(B ンー) ソシテネー アー
そうだけれども、あの地震でね。(B んー) そうしてねー あー

オサマッタド オモタラ マダ ナッテキタワゲサ ホイズ。
おさまったと 思ったら また なってきたわけさ それ。

ナカ° ガッタガラネー。ソシテー オワ オワ マダ オワンナカ° ッタンダナ。
長かったからね。そして ×× ×× まだ 終わらなかったんだな。

ソノウジネー アノー ダレガ ラジオ モッテダーノガナー ナーンドガ
そのうちね あの 誰か ラジオ 持ってたのかなー 何だか

オーツナミ クンダドヤーッテユーゴド ナッタノネ。
大津波が[が] 来るんだってよーっていうこと[に] なったのね。

(B ンー) オーツナミツツタッテ ホレ、ナーニ ドイナダガ
(B んー) 大津波っていったって ほら、何 どういうのだから

ワガンネサ、 オーツナミツタッテ モー ヤンベー オッチンダナード。
分からないさ、大津波っていったって もう とても 大きいんだなと。

マサガ アンナ ジューナンメーターモ ニジューメーターモ
まさか あんな 十何メートルも 二十メートルも

サンジューメーターモ クット オモワネーガラネー。アーラ オーツナミ
三十メートルも 来ると[は] 思わないからねー。 あら 大津波

ナニ マズー [2] ッテ。ソシテネー トヌカグ ナンカイモ ホレ
何 まずって。そしてねー とにかく 何回も ほら

利府町 自由会話

ヨシン ツズイデッカラ チューシャジョーマデ イク° ノニネー
余震 続いてるから 駐車場まで 行くのにねー

ヤッパリ ニサンカイグライ アンダモノ。 (B アッタ) アー マタ キター
やっぱり 二、三回くらい あるんだもの。 (B あった) あー また 来たー

ナンテネ。ソシテ ウジマデ ンデ ウジ ナンジョナッテダベヤーッテ、
なんてね。そして 家まで それじゃ 家 どうなっているだろうかって、

アー オライノ イエア アーダノ ツブレットンデネーガーワーッテ、ホレ。
あー うちの 家は あんなの つぶれているんじゃないかよって、ほら。

ソイナゴドデネー カエッテキタンダゲッドモ、マ サホドデナカタゲットモ。
そんなことでねー 帰って来たんだけど、 まあ さほどでなかったけれども。

コゴワネ、オガケ° サマデ。マ ソンナゴドデネ サイソワ ンデモ
ここはね、おかげさまで。 まあ そんなことでね 最初は それでも

タイヘンダッタンダオン。ホシテ チタラバ コンド サムイスぺ。
大変だったんだもの。 そして [家に]来たらば 今度 [は] 寒いでしょう。

サムイバス デンキワ コネーネアレ。アーズ、ホンデ クイモノネーндаモノ
寒いし 電気は 来ないね。 あーと、それで 食べ物ないんだもの

コンド。(B アー) オレワネー コッペパン ヒトツ クテ ネデ
今度。(B あー) 俺はねー コッペパン ひとつ 食べて 寝て

クルマサ ホレ、クルマデ トマッテッチャワ、ドゴニモ イガンネーカラ。
車に ほら、車で 泊まっていたよ、 どこにも 行けないから。

ソイデ オライデ アノ チャノマ コイズ オッタンダナー。
それで 私の家で あの 茶の間 [の] これ [=電灯] 落ちたんだなー。

(B アー) アブネクテネアレ。ホノ ケーコートー コワイガラッシャ、
(B あー) 危なくてね。 その 蛍光灯 怖いからさ、

利府町 自由会話

(B アー) ハイランネーガラ ホレ。デ クライベス デ クルマサ
(B あー) 入れないからね ほら。それで 暗いし それで 車に

ヒトバン トマッタノッサ。サムイベシ クイモノネーベスデ コンドワ
一晩 泊まったのさ。寒いし 食べ物ないしで 今度は

コッペパンデ、トユーンデ アノー ショクパンワ ミズ ネクテ
コッペパンで、というので あの 食パンは 水 なくて

ガマンシッタッチャワネアレ。
我慢していたよね。

004B : ンー ホントー。(A ウン) ヒドガッタネー。
んー 本当。(A うん) ひどかったねー。

005A : シドガッタンダモノ。
ひどかったんだもの。

006B : アー ソー。 ンーンー。
あー そう。 んーんー。

007A : マー ソナエ コドダッタンデス、ワカ° ヤワ。
まー そんな ことだったんです、我が家は。

008B : アー ワタシワ アネノウジデネー X1 ケデ オジャノミシッタノサ。
あー 私は 姉のうちでねー X1 家で お茶のみしていたのね。

(A ンー) アネサマド。(A ウン) ソシタツケ ユーレデキタノ。
(A うん) お姉さんと。(A うん) そしたら 揺れてきたの。

009A : アー コッチノ。
あー こっちの。

010B : ウン。
うん。

利府町 自由会話

011A : コッチ ヤマダマジノ。
こっち 山田町の。

012B : ンー。
うん。

013A : ウン。
うん。

014B : コジネ。 ホシタラバー ユレデキタノ。ワダシネー アノ
こっちね。そしたら 揺れてきたの。私ねー あの

センダイオギジシン [3] ドギモ アネノウジニ イデ オジャノミシッタトギニ
仙台沖地震[の] ときも 姉のうちに いて お茶のみしていたときに

ナッダガラ アンダエサ クッド イッツモ ジシンニ ナッガラ
[地震に]なったから あなたの家に くと いつも 地震に なるから

ヤンダーッテ。 {笑} カッタモノモ ナニモ バックモ ミナ オイテ、
嫌だーって。 {笑} 買ったものも 何も バッグも みんな 置いて、

クツモ ハカズニ ソ ハカズニ ソドニ デダノ。(A シテ)
靴も 履かずに × 履かずに 外に 出たの。(A そして)

ソシテ デデッテ タ ハタゲ アッタカラ アソコノ マエニネ ホラ
そして 出て行って × 畑 あったから あそこの 前にね ほら

X2 チャン イエノ マエニサ。(A アー) ホンデ ハダゲンドゴニ イデ
X2 ちゃん[の] 家の 前にさ。(A あー) それで 畑のところに いて

コーヤッテ ミッダラ X2 チャン イエノ アノ イワヘーガ
こうやって 見てたら X2 ちゃん[の] 家の あの 岩塀が

ヒックリガエッテダノ ホント。アララララーッテ (A ア) ミテテ
ひっくり返ってるの 本当。あららららって (A あ) 見てて

利府町 自由会話

アッリヤーツッテ ソシタラ イチオー オサマッタノ。シタラ
ありゃーっていって そしたら 一応 おさまったの。そしたら

アネガ ストーブ ケシタリネ アタシヨリ ジューニ ヨゲーダカラ
姉が ストーブ 消したりね 私より 十二 [歳] 余計 [=年上] だから

ハッチューヨンサイノ アネガ イッショーケンメーナテ {笑} ストーブ
八十四歳の 姉が 一生懸命になって {笑} ストーブ

ケシタリ {笑} デンキオ ナンダリシテ ソシテ ワダシノ クツ モッテ
消したり {笑} 電気を 何かして そして 私の 靴 [を] 持って

カイモノシタ フクロモッテ ホレ アンタ {笑} クズ ハガインッテ ユテ
買い物した 袋持って これ あなた {笑} 靴 履きなさいって 言って

アネガ

姉が

015A : ドッツ ドッツガ ドッツダガ ワガンネグナタノスカワ。
どっち どっちがどっちだか 分からなくなったんですか。

016B : ドッチガ ウン ドッチガ アネデ ドッチガ イモートダガ
どっちが うん どっちが 姉で どっちが 妹だか

ワガンネーヨーナゴドシテ ソシテ シタラ コンド ウジ
分からないようなことして そして そしたら 今度 [は] 家

シンパイナノサワ、ヤッパリ。アネノウジモダゲド。アネノウジワ イーヨ、
心配なのね、 やっぱり。姉の家もだけど。 姉の家は いいよ、

リッパダガラ。ツブレネベゲットモ ツブレネスワ
立派だから。 つぶれないだろうけれども つぶれないしは

ワガッタダンダゲド、 コンド ココ ズーット アルイテ ココ トー
分かっているんだけど、今度 ここ ずーっと 歩いて ここ ××

利府町 自由会話

チョード ココ トーッテ カエッタノネ。ホシテ ホラ (A ウーン)
丁度 ここ 通って 帰ったのね。そして ほら (A うーん)

ムスコノ ニバンメノ ウジノ ムスコノ ウジ ミタラ アソゴ
×××× 二番目の うちの 息子の 家 見たら あそこ[は]

テッキンダガラ ナントガ ナンデモナエンダサ。ンデモ コワクテ
鉄筋だから なんとか なんでもないんだよ。それでも 怖くて

イランナエッテ ソトニ ヨメトサ マコ° カ° プルプル
[中に]居られないって 外に 嫁とね 孫が ぷるぷる

フルエデッカラ ソノゴ ツレデ ウジマデ イッテ、
震えているから その子 [を] 連れて [私の] 家まで 行って、

シタラ ウジモ ドーユーワゲガ ツブレワシナガッタダヨネ。
そうしたら [私の] 家も どういうわけか つぶれはしなかったんだよね。

ンダガラ ソノ コンド ソコカラ ムスコダジド キューニンカゾクデ
それだから その 今度 そこから 息子たちと 9人家族で

イッカケ° ズ イマシタ。
一か月 いました。

017A : アー—— シバラグ カガッタモナー。
あー しばらく [復旧まで] かかったものなー。

018B : ンー イッカゲズ オイダヨー。 シタラ
んー 一か月 [息子たちを我が家に] 置いたよー。そうしたら

イッカゲズ タテ カエシテヤッタラ マダダスペヤ。
一か月 経って 帰してやったら またでしょうよ。

019A : シガツナノガニ コレガ オッチガッタノ、ギヤグニ。
四月七日に [来た余震] これが 大きかったの、逆に。

利府町 自由会話

020B : オッキガッタノ。
大きかったの。

021C : オッキガッタネー。
大きかったねー。

022A : アレガネ
あれがね

023B : アノ ユレガ ムガシノ センダイオギジシンノ ユレダヨ アレ。
あの 揺れが 昔の 仙台沖地震の 揺れだよ あれ。

024A : アーレデネー コンドウ ダンスイダ。スバラグ カガッタ、ダンスイ。
あれでねー 今度は 断水だ。 しばらく かかった、断水。

025B : カガッタネー。ミズクミ タイヘンダッタネ (A ミズクミ) マイニジ。
かかったねー。水汲み 大変だったね (A 水汲み) 毎日。

026A : ホンデ ヤグバマデ (B ン) イガナゲネンダオン。 ン ミズクミ。
それで 役場まで (B ン) 行かなければいけないんだもの。ン 水汲み。

(B ンダ) ノミミズネ。(B ン) ンデ トイレノ ミズワ ホレ コノ
(B そうだ) 飲み水ね。(B ン) それで トイレの 水は ほら この

027B : カワガラ クンデキテモラウガラ。(A ア一)
川から 汲んできてもらうから。(A あ一)

028A : アド オレ マチサ デッタガラネ、ヤグインダガラ。ンダガラ ソゴサ
あと 俺 町に 出てたからね、役員だから。 それだから そこに

ポリサゲ オケバ オイデッテケダガラ イガッタノネ。
ポリ [バケツ] さえ 置けば 置いていってくれたから よかったのね。

ノミミズカ° イズバン コマッタ。
飲み水が 一番 困った。

029B : コマッタネ。
困ったね。

030A : シテ オライデ マコ[°] チャッコイノ イダスペ。
そして 私の家で 孫[が] 小さいの[が] いるでしょう。

031B : アー ホンデ タイヘンダ。
あー それでは 大変だ。

032A : コンドワネ オムツダモン、ナイスペワ。 (B ーン) ホンデ オラエノ
今度はね おむつだもの、ないでしょう。(B うん) それで 私の家の

ヨメッコ コンド アサ ゴジゴロ オギデー、ナランデイダダベナー。
お嫁さん 今度 朝 五時ごろ 起きてー、並んでたんだらうなー。

(B ーン) ホデ ミルクダノ、ホデ ソイズ コー ナクテネ コンドワ
(B うん) それで ミルクだの、それで それ[が] こう なくて 今度は

ヤマガダノ (D アー) トナリノ ワゲモノ ヤマカ[°] ダサ イッカラ
山形の (D あー) 隣の 若者[が] 山形に 行くから

デンワシテ ヨナガニ モツテチテ モラッタデバ。(B ハー)
電話して 夜中に 持ってきて もらったってば。(B はー)

ハー イヤイヤ オムツド (B ンダネー) ミルクネ アレ カッテモラッテ
はー いやいや おむつと (B そうだね) ミルクね あれ 買ってもらって

ヨナガニ トドケデケダノ。
夜中に 届けてくれたの。

033B : ダッテ ホラ イケナインダモノネー (D ウーン) ガソリンガ ナクテネー。
だって ほら 行けないんだものねー (D うーん) ガソリンが なくてねー。

034A : ナインダモノ。ガソリンナイシネアレ、イガンネスペ。
ないんだもの。ガソリンないしね、行けないでしょう。

利府町 自由会話

035 B : イジバン ガソリン ナイノニ コマッタヨネ。 ウゴゲナイ。
一番 ガソリン ないのに 困ったよね。 動けない。

036 A : コンドリ ナラブツタッテ ナー ندا オドゲデネー نداモノ。
今度は 並ぶといたって なんだ [列が] とんでもないんだもの。

イツズカンソコラデ カエネーガラワ。アーサカラ イッタッテ
一時間くらいでは 買えないからさ。朝から 行ったって

オシルナンダモノ、カエッデクッド。
お昼なんだもの、 帰ってくると。

037 B : ミルク ホシガッダノ。
ミルク 欲しかったの？

038 A : ウン。
うん。

039 B : アーソー。
あーそー。

040 A : ンー ダガラネ タイヘンダッタゴドモ アッタノ。
うん だからね 大変だったことも あったの。

041 B : アカチャンワ タイヘンダッタ ベナー。
赤ちゃんは 大変だった でしょうねー。

042 A : ウン。アイズ イマ フタツツ ナッタゲレドモネ (B アー) アー
うん。あいつ 今 二歳[に] なったけれどもね (B あー) あー

ンダガラ ナーニ イッサイノ サンガズウマレナンダゲット イッサイノ
だから 何 一歳の 三月生まれなんだけれど 一歳の

タンジョービモ ナンニモ ネーノサワ ホレネアレ。
誕生日も 何にも ないのさ ほらね。

利府町 自由会話

ソイズドゴロデネーモン ンダッテ。
それどころではないもの だッテ。

043B : ンダネー。シカシ アノ アーユーフーナ テンサイッテユーガ
そうだね。しかし あの ああいうふうな 天災というか

ジシンダノ オギット アカチャンダノサ トシヨリダノワ ヒドイナー。
地震だの 起きると 赤ちゃんとかさ 年寄りとかは ひどいね。

(A ウン) ヤッパリ トシヨリド コドモワ ヒドイ。

(A うん) やっぱり 年寄りと 子供は ひどい。

044A : タイヘンダネ。
大変だね。

045B : ン タイヘン。ン ワガイヒトワ ツ ナンデモ デギンダヨネ。
うん 大変。 うーん 若い人は × 何でも できるんだよね。

(A ウン) アルグゴドモネ。 (A ンダモ ガマンネー)

(A うん) 歩くこともね。 (A そうだもの 我慢ね)

ガマンモデギッケンドー、タダ トシヨリト コドモワ デギナイ。
我慢もできるけれど、 ただ 年寄りと 子供は できない。

046A : デギナイノネ。 (B ン) ホンナ ガマンモナニモ。
できないのね。 (B うーん) そんな 我慢も何も。

047B : ガマンモ デギナイシネ マッテルノモ ダメダシナー。
我慢も できないしね 待ってるのも だめだしな。

048A : タイヘンダッタオンナ。アトワ ショージギイッテネ (B ウーン)
大変だったものな。あとは 正直言ってね (B うーん)

マー ホントー ダメダ、コイズワネー。ドゴデモ ホレ ンダガラー、
まー 本当 だめだ、これはねー。 どこでも ほら そうだから、

利府町 自由会話

トヌカグ イジバン ガソリンネーノガ イジバン コマッタオンネ。
とにかく 一番 ガソリンないのが 一番 困ったものね。

クルマサ イレルズダッデ ハンニジグライ カガッテ ホンデ
車に 入れるといたって 半日くらい かかって それで

049 B : ジュー ジューリッターダモノ。
××× 十リットルだもの。

050 A : ジューリッターグライスカ イレナガッタズーコドダッタ。
十リットルぐらいしか 入れられなかったということだった。

051 B : ンー、ンダガラー ソンナー デシタネー。ンー。
うーん、だから そんな でしたね。 んー。

052 A : ホイズ ワガッテレバ ミンナ マンタンニ イレッタンダベゲットモ、
それ[が] 分かっていたら みんな 満タンに 入れていたんだろうけれども、

マーサガー ジシンクット オモワネーガラ ホレ ナーニ ジリジリーノ
まさか 地震来ると 思わないから ほら 何 ギリギリの

センデ ホレ アシタ イレッペナッテヒトモ アッタベゲットモ、
線で ほら 明日 入れようって人も いただろうけれども、

ガソリン。

ガソリン。

053 B : ホンデ Aチャン イエデワ ナンデモネガッダノ。
それで Aちゃん[の] 家では 何でもなかったの。

054 A : デ オライデネー
で 私の家でねー

055 B : イチブソンカイ、ハンカイ。
一部損壊、 半壊？

利府町 自由会話

056A : イチブー ウン ダガラ モースコマネンダナース。ナンモ
一部 うん だから 申し込まないんだな。 何も

タイスタコトネーндаモノ。アイズバッテダ、オッタノ。アノ デンチネアレー。
大したことないんだもの。 あればかりだ、 落ちたの。あの 電気ね。

(B ウン) カサ [4] オッタンダナー。ヤラッチャレッタンダ。

(B うん) 傘 落ちたんだなー。やられちゃったんだ。

アイツドネー

あれとねー

057B : チョード オンナジトギニ オンナジダイクサンデ タデダンダネ (A アー)
ちょうど 同じ時に 同じ大工さんで 建てたんだね (A ああ)

オダグド ウジ。(A ウン) ンダガラ タンジョービ オンナジダネ (A ウン)
お宅と うち。(A うん) だから 誕生日 同じだね (A うん)

アノー (A ウジネ) ウジノタンジョービ ウジョノタンジョービガ
あの一 (A 家ね) 家の誕生日 家の誕生日が

オンナジナンダガラ ナンデ
同じなんだから 何でも

058A : ナンデモネガッダノ。
何でもなかったの?

059B : ナンデモナイ。(A ン一) ウジモ タイシダコド ネーネ。
何でもない。(A ん一) うちも たいしたこと ないね。

イジバン イダンダノワ センダイオギジシンドギダヨナー。 {咳ばらい}
一番 傷んだのは 仙台沖地震 [の] ときだよな。 {咳ばらい}

060A : ホーンドギダッデ オライ ナンデモネーヨ。
そのときだって 私の家 なんでもないよ。

利府町 自由会話

061B : オライデ タイルサダノ コー ハイタッタッテ。
私の家で タイルだの[に] こう [亀裂が]入ったって。

062A : ハー一 オライデモネ サホド ホレ ナンボガワ ホレ キレズワ
は一 私の家でもね さほど ほら いくらかは ほら 亀裂は

ハイッタゲットモ。(B ン一 キレズサ) カベニネ。ナーニ
入ったけれども。(B うん 亀裂さ) 壁にね。 何

063B : ン一 カケタリワシナイ。
うん 欠けたりはしない。

064A : サッパリ スンデ シシヨ一ネ一モノ ンダッテ。(B ン一 ダガラ)
さっぱり 住んで 支障ないもの それだって。(B うん だから)

ダガラ オラエ (B ウ一ン) ヤク° バノホ一ニモ トドゲナイシ
だから 私の家 (B う一ン) 役場の方にも [被災の] 届けないし

ホレ ナニモ ウン ソ一ダッタノ。
ほら 何も [しなかった] うん そうだったの。

ンデネ一 タンボ ウメデネ一、ヤ ヤワ ゼンブ ヤワイガラナノガネ、
それでね一 田んぼ 埋めてね、 × ×× 全部 やわらかいからなのかね、

ナゼガシラネゲット トニカグ ナンデモネ一ンダネ。(C ウ一ン)
何故か知らないけれど とにかく なんでもないんだね。(C う一ン)

065B : オンナジニ ユ一 ウゴイダンダベネ。
[地震のゆれと] 同じに こう 動いたんだろうね。

066C : ギャグニ ジバンガ (A ア一) ヤワイガラ
逆に 地盤が (A あ一) やわらかいから

067A : ヤワイガラ カエッテ
柔らかいから かえって

利府町 自由会話

068 B : ヤワイマンマ ウコ イタンダサネー (C ダガラ ク クッションニナッテ)
柔らかいまま うごいたんだねー (C だから × クッションになって)

エキジョーカシナクテ
液状化しなくて

069 A : ンダガラ イガッタノカネー アイズ。(B ンー)
それだから よかったのかね あれ。(B うーん)

070 C : ガンバンダト カエッテ ヤラレダンダモンネ ウン。(A アー)
岩盤だと かえって やられたんだものね うん。(A あー)

071 A : ソーユーネ マズネ ウー
そういうね まずね うー

072 B : ヨガッタネー。
よかったねー。

073 A : ウン。サホドージャナクテネ (B ンー) ウン ナニモ タイシタ
うん。さほどじゃなくてね (B うん) うん 何も 大した

074 B : リフワネー。
利府はねー。

075 A : ウン ヒガイモナクッテネー マズー (B リフワ オナジ) ホガガラ
うん 被害もなくてねー まずー (B 利府は 同じ) ほかから

ミダラバネー (B ンー) ナイド オナジダガラッサ。
見たらねー (B うん) ないと 同じだからさ。

076 B : ンダネー。
そうだね。

077 A : ウン。イガッタノ。
うん。よかったの。

利府町 自由会話

078B : ソレワネー カベノー ハジッコ カゲダドガナンテワ
それはね 壁の 端っこ [が] 欠けたとかなんていうのは

(A シー ソナノワネー) ホンナー アルンデスー、ヤッパリ。

(A うん そんなのはねー) そんな あるんです、 やっぱり。

ンダゲド オナジグ ホラ ンット ヒドグワ ナンナカッタ。
そうだけど 同じく ほら うんと ひどくは ならなかった。

宮城県宮城郡利府町方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 コイナノコイナノ
身振りで示している。

〔2〕 マズ
利府町において「マズ」は、共通語の「まず」とは異なり、「まあ」「本当に」などの間投詞のように用いられている。ここでは「まあ」「本当に」などとも訳せないため、「まず」のままにしてある。

〔3〕 センダイオギジシン
仙台沖地震。1978年6月12日に発生した宮城県沖地震のこと。

〔4〕 カサ
蛍光灯などにかぶせてある傘のこと。

宮城県宮城郡利府町方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
 佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2 年）
 袁 曉犇（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）
 柴田 充（東北大学文学部 3 年）

文字化担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
 佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2 年）
 柴田 充（東北大学文学部 3 年）